Title	Communication between health professionals and community residents in Fukushima: A focus on the feedback loop(内容・審査結果要旨)
Author(s)	弓屋, 結
Citation	
Issue Date	2019-09-30
URL	http://ir.fmu.ac.jp/dspace/handle/123456789/1044
Rights	Fulltext: This was made revisions to an Accepted Manuscript of an article published by Taylor & Francis Group in Health Communication on June 2019, available online: https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/10410236.2019.1625004
DOI	
Text Version	ETD

論文内容要旨

しめい 氏名	ゆみや ゆい 弓 屋 結
学位論文題名	Communication between Health Professionals and Community Residents in Fukushima: A focus on the feedback loop 福島県における保健従事者と地域住民間のコミュニケーション： フィードバックループに焦点を当てて
<p>背景： コミュニケーションの基本となる、情報の発信側（保健医療従事者）と受け取る側（住民）の双方向性の関係において、評価結果を事業やサービスの向上に反映する上では、他者（患者や住民）からの評価の受け止めが要となる。原発事故後、福島県における保健医療従事者は放射線による健康への影響に関して住民へ説明する困難さに直面した。そこで、地域住民により良く健康情報を伝えられるよう保健師の能力を向上させるため、福島県保健師現任教育の一環としてヘルスリテラシー研修を行った。これまでの研修評価からでは、研修の適切性と有用性が高く評価されたが、保健師の地域との関わり方に対する態度は評価に含まれていない。そこで本研究では、保健師の住民からの評価の受け止め方に着目し、関連要因を明らかにすることを目的とした。最終的には、今後の研修の実施方法及び内容の改善策を立案する。</p> <p>方法： 2017 年 10-11 月に福島県内の全自治体保健師 723 名を対象として、各自治体の統括保健師を通して、自記式質問用紙調査を行った。質問項目は、個人属性、住民評価の受け止め（Jensen らの尺度）、ヘルスリテラシー研修参加、研修評価、学習の達成度自己評価、ヘルスリテラシーレベル（Communicative and Critical Health Literacy, CCHL 尺度）、ストレスレベル（新職業性ストレス簡易調査票）、自由記述である。分析は、研修参加経験と個人属性、労働環境、ヘルスリテラシーレベルの関連を確認した上で、研修参加経験と住民評価の受け止め方の関連について二項ロジスティック解析を用いて行った。</p> <p>結果： 有効回答 582 件（有効回答率 80.5%）を分析した。参加群（19.4%）は非参加群（80.6%）に比較して、労働環境の 3 項目（技能の活用、失敗を認める職場、ワーク・エンゲイジメント）が有意に高かった。ヘルスリテラシーレベルに関しては、相互作用的ヘルスリテラシーが高い傾向が見られた。また、住民からのフィードバックの受け止め方に関しては、フィードバックの量・具体性・満足感の 3 項目が、他の要因を調整した上でも参加群において有意に高かった（量：aOR=1.87, 95%CI: 1.21-2.88; 具体性：aOR=1.69, 95%CI: 1.09-2.61; 満足感：aOR=2.34, 95%CI: 1.50-3.65）。</p> <p>結論： 研修参加者は、不参加者に比べると住民からのフィードバックを肯定的に受け止めていることが明らかになった。したがって、保健師活動の一環として積極的に研修を受けさせるような職場環境づくり、またヘルスリテラシー研修を組織レベルで継続推進していくことが必要であることが示唆された。</p>	

※日本語で記載すること。1200字以内にまとめること。

学位論文審査結果報告書

令和元年 7 月 1 日

大学院医学研究科長様

下記のとおり学位論文の審査を終了したので報告いたします。

【審査結果要旨】

氏名 弓屋 結

学位論文題名 **Communication between health professionals and community residents
in Fukushima: A focus on the feedback loop.**

(福島県における保健従事者と地域住民間のコミュニケーション：
フィードバックループに焦点を当てて)

本研究は、2011 年に発生した地震及び原発事故により健康不安が深刻であった福島県内の自治体保健師と住民とのコミュニケーションのあり方に注目し、それを円滑に進めるための研修会の効果を評価したものである。初めての経験であった原発事故後、住民との向き合い方は保健師にとって難しいものであったことが想像される。住民からの声は、時に保健師たちの緊張感と不安を掻き立てるものであったと思われる。この状況に対処するために開催されたヘルスリテラシー研修会に参加した保健師は、参加しなかった保健師と比較してストレスの少ない職場環境作りをしていたり、自身のヘルスリテラシーの向上が保健師業務により効果を与えていたりした。中でも、住民からのフィードバックを肯定的に受け止めることができる心理状態になったことは、保健師と住民との相互理解が進んだことを示す重要な結果と考える。

審査会及びその後に確認の質問、コメントを行ったが、審査委員の質問に的確に回答し、学位論文の修正がなされていることを確認した。

時にパニックにつながる危険をはらむ大災害時において、行政と住民のコミュニケーションは重要であり、それを円滑に進めるためには、行政スタッフが住民からのフィードバックを受け止め、それを活かし、信頼を得ることが必要である。危機管理を意識したヘルスリテラシー教育の効果、目的をより明確にしたことは今後の研修会等の在り方に大きな影響を与えるものと考え、本研究論文は学位に値すると判断した。

論文審査委員 主査 福島 哲仁
副査 小宮 ひろみ
副査 緑川 早苗